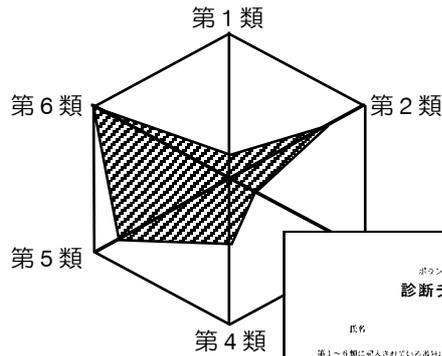


「ボランティアグループの健康診断しませんか？」

運営診断ブックレット



グループ運営診断問診票

ボランティアグループの健康状態をチェックしましょう！

少しでも気になる項目がありましたら該当する番号に○して下さい。
※17項目は必ず回答して下さい。○がなくても大丈夫です。 (必ずまで)

- 新しいメンバーがあまり入ってこない
- 入ってくるが、定着しない
- メンバーがだんだん少なくなっている
- 活動の技術や知識が深まりにくい
- 何のための活動かわからなくなる時がある
- 活動がマンネリ化していると感じる時がある
- 白熱した活動がなかなか始められない
- 活動に来るメンバーが少ない
- 活動の参加者が集まりにくい
- どんな活動をしたら良いか迷っている
- グループを解散したいと思うこともある
- 今の活動が伸びるだけで精一杯だ
- いつか自然消滅してもおかしくない状態だ
- 活動の資金に困っている
- 活動の経路に困っている
- 事故が起こりそうで不安な時がある
- グループ内で意見が合う人が少ない時がある
- 活動に対する考え方がバラバラで揃っていない
- メンバーの中で役割ができていない
- メンバー同士お祭り気遣いが少ない
- 自分の意見を言いにくい
- 全体のことを話し合うミーティングがない
- ミーティングの参加者が少ない
- 活動に関する情報が集まりにくい
- 活動が重なった時、相対する相手がいらない
- 役割分担がうまくいっていないと感じる
- ここ数年リーダーの交代ができていない
- 実効リーダーを定めていない
- リーダーの交代がスムーズでできないだろう
- その他・・・

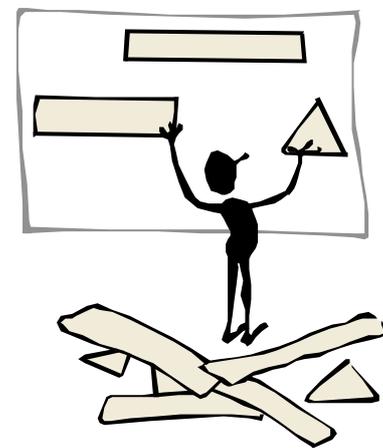
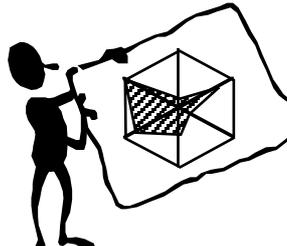
氏名 _____
 グループ名 _____

ボランティアグループの健康診断 診断チェックシート

氏名 _____ グループ名 _____

第1～6類に記入されている番号に、確信度(○)をした項目から転記してください。

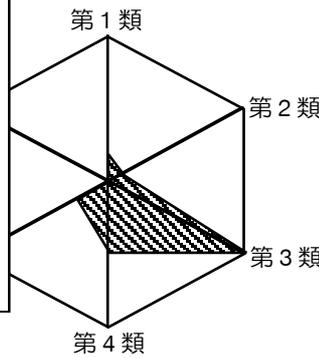
第1類「ミッション(目的・使命)」 5, 6, 8, 10, 18 () ○
 第2類「人材開発・トレーニング」 1, 2, 3, 4, 26 () ○
 第3類「コミュニケーション」 17, 19, 20, 21, 22, 25 () ○
 第4類「リーダーシップ」 26, 27, 28, 29 () ○
 第5類「活動の社会化」 7, 9, 14, 15, 24 () ○
 第6類「活動基盤の整備」 14, 15, 16, 23 () ○
 別類 () 11, 12, 13 () ○



ボランティアグループの運営習慣を調べる 「20項目の運営習慣チェック」

①グループの年令は ()才
 ②グループの人数は 名(男)は ()人 女性に活動に参加するのは ()人程度
 ③グループの人数は ①ほど増減 ()あまり増減なし ()増減が激しい ()増減が少ない
 ④メンバーの専業主婦は ①増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑤グループの活動内容 ()
 ⑥グループの活動内容は伝統と変化を ()していない ()している ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑦グループの活動頻度は ①年 ()回
 ⑧グループの活動頻度は ①増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑨グループには「会則」や「規約」が ()ある ()ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑩グループの「暮らし」や活動を紹介する「広報誌」が ()ある ()ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑪グループの年間活動や役員などを定める年次総会は ()必ず開いている ()開かない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑫活動とは別に、日中のグループの活動方針や目標を話しあうミーティングを ()実施している ()実施していない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑬活動方針や予定などの決定事項を記録していますか ()はい ()いいえ ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑭会計報告は ()定期的 ()不定期 ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑮グループで決めたことをどうやって実行に決断したメンバー等に伝えていますか ()フロントで直接 ()電話で連絡 ()増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑯グループの代表・役員を選出方法は ()話し合い ()投票 ()増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑰話し合いで「代表」を選出する ()話し合い ()投票 ()増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑱話し合いで「役員」を選出する ()話し合い ()投票 ()増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑲話し合いで「役員」を選出する ()話し合い ()投票 ()増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない
 ⑳話し合いで「役員」を選出する ()話し合い ()投票 ()増減が激しい ()増減が少ない ()増減が激しい ()増減が少ない

氏名 _____
 グループ名 _____ (各グループの代表者・メンバー 氏)



ボランティアグループ運営支援プログラム

「ボランティアグループの健康診断しませんか？」の進め方

北区ボランティアセンター、筒井のり子（龍谷大学）共同開発プログラム

グループ運営の悩み・・・それはボランティア活動を進める上で、避けては通れない課題であり、きわめて古く同時にきわめて新しい課題でもあります。

そしてボランティアコーディネーターにとっても、重要な役割のひとつであるグループ運営の支援について、自己診断プログラムの形式をとりながらグループが自己再生の力をつけていく過程をともに考えてみましょう。

事例1 <こんなはずでは…その(1)>

大学一年の滝沢くん（仮名）は、最近学校が退屈で仕方がない。その日も講義をさぼってベンチでぼんやりしていたら、近くから子ども達の声が聞こえてきた。何かに吸い寄せられるようにその児童館へ行ってみた滝沢くんは、そこで障害のある子どもと遊ぶボランティア募集のポスターを発見。職員に勧められるままに週一回活動を始めることになった。のんびり自由にやれる雰囲気が入った。

一ヶ月ほどたった頃、別の曜日のボランティアからグループに入らないかと誘われた。情報も入るし、いろいろ相談もできると勧められ、誘われるまま入会。

ところが、それから滝沢くんの生活は一変した。やれ、学習会だの、チラシ配りだのと頻繁に会合がある。それを休むと「他の者はこんなに頑張っているのに…」と批判される。また、滝沢くんはただ楽しくおもしろく子どもたちと遊びたいだけなのに、「もっと真剣に障害のある子どものことを考えるべきだ」と意見される。グループに入ったら、仲間ができてもっと楽に活動できるようになると思っていたのに、これではまったく逆だ。

「こんなはずでは…」と思いつつ児童館へ向かう足取りは今日も重い。

事例2 <こんなはずでは…その(2)>

歌田ヒカルさん（仮名、57歳）は、コーラスに社交ダンスにと毎日忙しく活躍している主婦。60歳まであと数年となり、思うところあって公民館で開催された「福祉講座」を受講した。週1回ずつ、2ヶ月にわたる講座で、すっかり“福祉のまちづくり”の必要性を痛感し、気の合う仲間もできた。講座の最終日、これでもうお別れというとき、思わず「ボランティアサークルを作りませんか！」と声を上げていた。



作りましょう、作りましょうと盛り上がり、グループの名前や活動先も決まり、さあ役割分担を決めようという段になって、なぜかみんな黙り込んでしまった。だれかが「みんなであればいいじゃない。そんなにきっちり決めなくても、その都度みんなであればいいわよ」と発言。結局うやむやになってしまった。

イヤな予感は的中した。みんな来たいときだけ来る、やりたいことだけに参加するで、活動先との交渉や連絡、準備、記録などは結局歌田さんが1人でやる羽目になってしまった。今、歌田さんは「みんなでやる」ということは「誰もやらない」と同義語だと痛感している。こんなはずではなかった…。

○「ボランティア」と「グループ」は矛盾？

冒頭に二つの例を挙げたが、これらは「ボランティア」が「グループをつくる」ことは元来矛盾を抱えているということを示しています。すなわち、その(1)は、“私”の関心やこだわりで自由に進められるはずの活動が、グループ化することにより、“他者”の関心やこだわりやペースとの間で折り合いをつけねばならなくなった例。その(2)は、個々の“好きな参加の仕方”と“グループの維持”との間の葛藤を示しています。

実際、ボランティアグループで、日頃さまざまな活動をしている人にとって、活動に関する悩みは尽きることがないにちがいありません。

○「悩み」といかにつきあうか

活動内容に関すること、活動資金に関すること、メンバーの数に関すること、などボランティアグループの数だけ悩みは存在することでしょう。むしろ、何の問題もないグループなど無いと
いっていいのではないのでしょうか。さまざまな活動上の課題にぶ
つかり、それをグループの力で乗り越えていこう、という姿勢に
は、社会のさまざまな課題に自ら取り組んで解決にむかってい
こうとするボランティア活動の本質的な姿が投影されているともいえます。

要は、その悩みに“どう、つきあっているか”ということで、うまくつきあうためには、まず悩みについて良く理解しなければならない。理解する前に、まず、悩み＝課題に気づかなくてはならない。そのためには、定期的にグループの状態を知る「健康診断」が必要となります。

自分では健康だと思っ
ていても、健診の結果、注意信号がなっていることに気づくことはよくあることだ。さて、あなたのグループはどうでしょうか。



ワークシートを使った参加型自己診断プログラムの進め方について

○健康診断のながれ

今回のグループ健康診断は、「問診票」「診断チェックシート」「20項目の運営習慣チェック」の3種類のシートで構成されている。課題発見から現状認識までのプロセスを、グループの当事者自らの力で導き出せるようにと工夫したものです。すなわち、次のような流れになります。

- ①「問診票」を使って運営課題を探る。
- ②「診断チェックシート」を使って課題を整理してみる。
- ③「20項目の運営習慣チェック」でグループをうまく運営していくための手がかりを探す。

これらの健康診断のシートはいろいろな使い方があります。もやもやを整理するためにあなたが一人で取り組んでもいいし、グループのメンバー全員に配付して各々の課題意識を探っていく方法や、異なるグループの人が集まって相互学習するなどである。では、実際にワークシートを使って健康診断をやってみよう。

① 「問診票」を使って課題の発見をしてみよう

グループ運営診断問診票
ボランティアグループの健康状態をチェックしましょう！

少しでも気になる項目がありましたら該当する番号に○して下さい。
※記入する場合は必ず「ネ」をつけてください。 (例) 3-ネ

1 新しいメンバーがあまり入ってこない	18 活動に対する考え方がバラバラで揃ってない
2 入ってくるが、定員に足りない	19 メンバーの中で距離ができて困っている
3 メンバーがだんだん少なくなっている	20 メンバー同士あまり会話がない
4 活動の技術や知識が深まりにくい	21 自分の意見を言えない
5 例のための活動がわからなくなる時がある	22 全体のことを話しあえない
6 活動がマンネリ化してると感じる時がある	23 ミーティングの参加者が少ない
7 自分達の活動がなかなか認められない	24 活動に関する情報が集まりにくい
8 活動に集まるメンバーが少ない	25 活動中困った時、相談する相手がいらない
9 活動の参加者が集まりにくい	26 役割が重なりすぎていていらないと感じる
10 どんな活動をしたら良いかわからない	27 どのリーダーの交代が難しい
11 グループを解散したいと思うこともある	28 運営リーダーが決められない
12 今の活動を続けるだけで精一杯	29 リーダーの交代がスムーズでない
13 いつか活動を減らしてもおもしろくない	30 その他...
14 活動の機会に困っている	
15 活動の場所に困っている	
16 事故が起きたらどうやって対応がある	
17 グループ内で連絡がうまくいかない時がある	

氏名 _____
グループ名 _____

まず、進行役のファシリテーターは、「問診票」の質問欄を読み上げ、これから運営診断が始まるという雰囲気づくりをしながら参加者に記入してもらいます。

***時間がない場合は読み上げずに、黙読で記入してもらう、または事前に配付しておいて、記入済みのところから診断プログラムを開始することもできます。**

～参加者へのメッセージ～

「問診票」にはグループ活動をしていく上で、課題になりそうな30項目が提示してあります。なるべく多くの手がかりをここから得ることが重要なので、少しでも気になる症状がある場合には、なるべく多くの項目に○をしてください。

さて、いくつ○がついたでしょうか。一つ一つチェックしていきながら、改めて気づいたことはどのようなことでしょうか。また、これらは主観的な判断を求める項目が多いので、同じグループでも人によって解答内容が随分違うかもしれない。

これは重要なことで、課題が「有る」か「無い」というだけでなく、こういう課題を気にかけている人がどれくらいいるのか、ということを知ることができる。

例えば6番目の項目「活動がマンネリ化してると感じる時がある」という問いにメンバー15人中、7人が○をつけたとすれば、活動がマンネリ化しているかどうかという厳密な評価ではなく、メンバーの約半分が「マンネリ化しているのではないかと気にかけている」という「事実」がわかるのである。人によって評価の分かれるこのような項目について、どれくらいの人か懸念しているのかを知ることは、今後のグループ運営を考える上でとても重要な情報になります。

POINT

あまり考えこまずに、直感的に記入してもらおう。

「なんとなくそう感じる」という程度の感覚を大事にする。

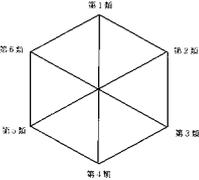
② 「診断チェックシート」を使って課題の整理をしよう

ボランティアグループの健康診断
診断チェックシート

氏名 _____ グループ名 _____

第1～6類に入力されている番号は、四角裏に○をした項目から転記してください。

第1類 [ミッション(目的・使命)] 5, 6, 8, 10, 18 ()コ
第2類 [人材開発・トレーニング] 1, 2, 3, 4, 26 ()コ
第3類 [コミュニケーション] 17, 19, 20, 21, 22, 25 ()コ
第4類 [リーダーシップ] 26, 27, 28, 29 ()コ
第5類 [活動の社会化] 7, 9, 14, 15, 24 ()コ
第6類 [活動基盤の整備] 14, 16, 16, 23 ()コ
別類 [] 11, 12, 13 ()コ



「問診票」に記入をしたあとは、○をつけた項目を「診断チェックシート」に転記します。一つの項目が複数のカテゴリーに含まれる場合もあります。問診票の項目は事前に下記の6種類のカテゴリーに分類されています。さらに、該当した項目数に応じてレーダーチャートに記入してグラフを完成させてみましょう。

第1類 [ミッション(目的・使命)] に関する症状

第2類 [人材開発・トレーニング] に関する症状

第3類 [コミュニケーション] に関する症状

第4類 [リーダーシップ] に関する症状

第5類 [活動の社会化] に関する症状

第6類 [活動基盤の整備] に関する症状

この「診断チェックシート」に「問診票」の該当項目をチェックしグラフ化することにより、どの分野に症状が集中しているのかという傾向を把握することができる。あなたのグループはどのカテゴリーの症状が多かったらう。

この結果をもとに、現在のグループの課題が集中している分野についてのディスカッションをすると、より課題が明確になる。(次ページ参照)

このダイアグラムにでた傾向をヒントにしなが、グループ運営の課題を参加者自身が確認することが、このプログラムで最も重要な場面である。ここで、運営課題の自己評価ができないと次のステップにすすめないの、これをうまく引き出すやりとりをすることがファシリテーター(進行役)の重要な役割になります。

POINT

①これは犯人探しではない！

ここでの議論は「運営上どこに課題があるか」を知ることが目的であって「誰が悪いから…」といった犯人探しをすることが目的ではないということを確認することが大切です。ファシリテーターは、議論がリーダー批判などに終始して、次のステップへすすまないことのないように進行に配慮することが重要です。

②過剰反応しない！

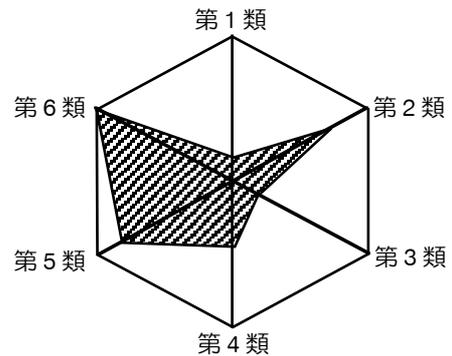
グラフに出た症状に参加者が過剰に反応しないよう気を配ることが大切です。それぞれの人チェックした項目は厳密に選ばれたものばかりではなく、「少し気になる」という程度のもも多分に含まれている。したがって、該当項目の○の数と、事の重大さは必ずしも比例しません。例えば「コミュニケーション」に多くの人が課題があるとグラフが示していても、「メンバー同士険悪な状態だ」と思って○をしたのか、「うまくいっているが以前にくらべるとちょっともの足りない」と感じて○をしたのかは、この診断ではわからないのです。そのために、グラフをもとにディスカッションをして、それぞれの課題の深刻さがどの程度なのかをメンバー同士が確認することが重要になります。

ダイアグラム記入により、下記の例のような傾向があらわれることが予想されます。

例1 設立したばかりの共同保育グループ

傾向：活動基盤に課題が多い

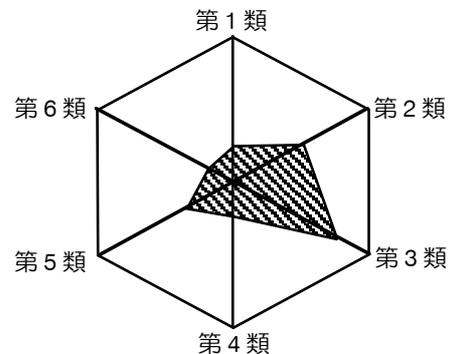
「グループを作ってまだ1年目なので、メンバー間の結束は固いです。でも続けるためにはそれだけではだめですね。もっと資金や場所などの活動基盤についても話し合わなければ…。」



例2 高齢者の会食会をしているグループ

傾向：人材育成とコミュニケーションに課題

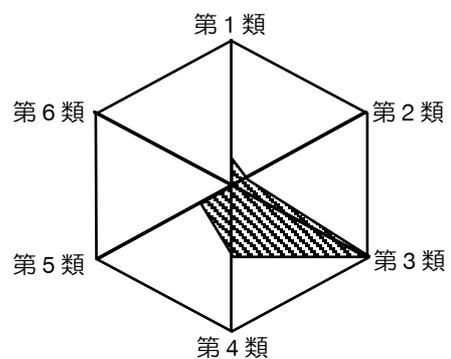
「3年目のグループなので、今のところ活動自体はうまくまわっています。だから気がつかなかったけれど、コミュニケーションが不足気味かもしれない。」



例3 設立12年の点訳グループ

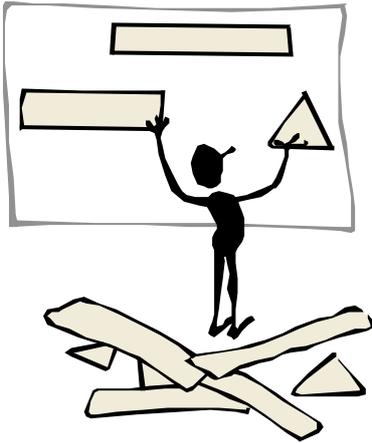
傾向：運営に関するコミュニケーションに課題

「予想通りでしたね。活動を始めて10年以上経つので、どうも会員の間で意識に食い違いがあるなと感じていたんです。でもこんなに極端に現れるとは思いませんでした。」



このように、うまくいっていると自信を深めるポイントと、グループとして存続していくために取り組まなければいけないポイントを、メンバー自身がしっかり自覚できるようになることが、今後の運営にとって大切なことです。

○自分たちで健康診断する意義



さて、以上で「健康診断」のプログラムは終了します。そこで、改めてボランティアグループにとっての健康診断の意味を考えてみましょう。

いうまでもなく「健康診断」は、今の状態を知ることが目的であって、その場で「治療」や「解決」をはかることが目的ではありません。「治療」や「解決」には、それぞれの症状に応じた治療方法の検討、選択、実施、効果測定、再評価など、別のプロセスが必要となります。

ここで大切なのは、このプログラムを通じて、日頃の活動の中でグループ運営のためのミーティングの時間を確保したり、リーダーが担っていた役割を分担する事に、多くのメン

バーが関心を払うような雰囲気づくりがされるかどうかという点にあります。このプログラムをグループのメンバー同士で試してみる価値はここにあるといえます。

ボランティアグループには、みなそれぞれのミッション（目的や使命）があります。

ある高齢者のための地域活動を行うグループは『この地域の老後を良くしたい』というミッションを掲げ、これを実現する手段として、相談活動やホームヘルプ活動等の高齢者支援を行っています。この『この地域の老後を良くしたい』というミッションを達成するためには、ボランティア活動によるさまざまな取り組みが考えられます。しかし、ボランティアグループの多くは潤沢な資金や人材、拠点などが用意されているわけではなく、「想い」を同じくした仲間同士が、限られた資源・条件のなかでどうしたら効果的に『この地域の老後を良くできるか』ということを考えてところから出発しなければならない。

○運営について気軽に話し合う工夫を

「経営の神様」といわれ、企業のみならず非営利組織の経営にも大きな影響を与えている米国の経営学者P.F.ドラッカーも、その著書の中で非営利団体の運営に『善意だけでは充分でない』とアドバイスしています。

目的の明確化、目標の設定、計画的な活動と自己評価など、収益だけで実績が評価できる企業とちがい、非営利組織こそ、それぞれの目的達成のために「うまく」運営することが大事であるといえます。

そして、それら運営上の課題には、目に見えやすい課題と見えにくい課題があることをグループリーダーやコーディネーターは認知していなければならない。

例えば、地域給食グループの『毎回のメニューを考える』という課題は明確でわかりやすいものだが、もし優れた給食用メニューブックを入手しさえすれば、それだけでグループが円満に活動を続けられるかといえば、多くの場合に答えはノーだろう。メンバー間のコミュニケーションはうまくいっているか、活動の記録や評価はできているか、人材の養成は順調か、活動方針の確認や人間関係の調整は良好か、などグループをうまく運営するための沢山の課題が埋もれている可能性は十分にある。

そこで、グループを健康的に運営していくためには、そういった運営上の課題についてグループのメンバー同士で話し合う機会を持つことが必要になってくるが、実はそれが簡単なことではない。

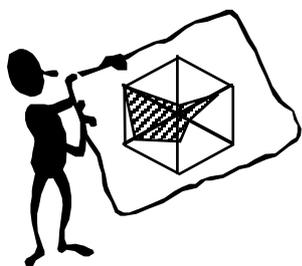
一つにはそういったグループ運営の課題といったものにあまり関心をよせていないメンバーが多い場合に、話し合い自体がうまく成立しないことがあるからである。「難しいこ

とは役員のみなさんで決めて下されば・・・」 「決まったことはなんでもお手伝いしますので教えてください」と、活動自体には関心があっても、運営の方針やそのために必要なことについてはリーダーや役員におまかせという人も多い。

また、もう一つの理由には、運営課題を挙げていくことがリーダー批判につながってしまう可能性があるため、誰もそのことについて語りたがらないという状況が考えられることです。このような現象はリーダーの交替がうまくすすんでいないグループなどで特に顕著な傾向にあります。

しかし、いずれにしても運営上の課題を放置したままでは、メンバーの減少や意欲の減退、資金不足、活動の低迷など、グループの活動自体にダメージを与える事態がおこりかねません。それを回避するためには、あまり気の進まないグループ運営上の課題について、気軽にメンバー同士で話し合う機会をもつ工夫をすることからはじめなければならないでしょう。

○ツールをうまく活用しよう



そこで、今回紹介したようなツール（道具）が役に立つかもしれません。こうしたツールを利用することによって、あまり堅苦しい雰囲気ではなくグループの運営上の課題に主体的に取り組む場を設定することが可能になります。いわば「アンケート」や「ゲーム」のような感覚で、難しい課題に取りかかることができるのがツールを使う利点といえます。

ボランティアとグループ化には元来矛盾があります。しかし、複数のメンバーが集まることによって、活動の継続性と安定性が向上し、またバランス感覚が増す。それになんともいっても仲間ができることによる支えあいは、それ自体がグループ活動の魅力といえます。

この特徴を最大限に生かし、矛盾の部分にみんなで向き合っていくことが、ボランティア活動の成果を引き上げ、それぞれのミッション（目的や使命）の達成に向かおうとする力を強くします。

○重要なファシリテーターの存在

上記のような作業でグループ運営の「課題発見」から「現状認識」までを進めますが、これを効果的にすすめるためには、ファシリテーターとよばれる、作業の水先案内人の存在が大きな意味を持ちます。ファシリテーターは、このプログラムが効果的に進行していくための進行、多様な意見が自由に出せるような雰囲気づくり、議論がグループ運営のテーマにそったかたちで進むための必要最小限の軌道修正などの役割を担います。

できれば、ファシリテーターの経験がある人や、ボランティアグループの運営に精通している人、有能なボランティアコーディネーターなどにこの役割を担ってもらうのが良いでしょう。グループのリーダーや、このプログラムを導入しようとするメンバーがその役割を担うことも、とても意味のあることといえます。

ただし、気をつけなければいけないのは、ファシリテーターはこのプログラムに参加する人々が、自らの力で課題発見から現状認識まで達成することを「支援」することが、与えられた役割です。プログラムの時間を短縮するために特定の意見を誘導したり、あまり議論が活発でない場合にも、参加者の代わりに自分の意見を並べて結論付けてしまったりすることの無いように気を配ることが大切です。

① 問 診 票

ボランティアグループの健康状態をチェックしましょう！



少しでも気になる項目がありましたら該当する番号に○して下さい。
特に気になる症状には◎をつけてください。(3つまで)

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 新しいメンバーがあまり入ってこない | 18 活動に対する考え方がバラバラで困る |
| 2 入ってくるが、定着しにくい | 19 メンバーの中で派閥ができて困っている |
| 3 メンバーがだんだん少なくなっている | 20 メンバー同士あまり会話がでない |
| 4 活動の技術や知識が深まりにくい | 21 自分の意見を言いにくい |
| 5 何のための活動かわからなくなる時がある | 22 全体のことを話すミーティングがない |
| 6 活動がマンネリ化してると感じる時がある | 23 ミーティングの参加者が少ない |
| 7 自分達の活動がなかなか認められない | 24 活動に関する情報が集まりにくい |
| 8 活動に来るメンバーが少ない | 25 活動中困った時、相談する相手がいない |
| 9 活動の対象者が集まりにくい | 26 役割分担がうまくいっていないと感じる |
| 10 どんな活動をしたら良いか迷っている | 27 ここ何年かリーダーの交代をしていない |
| 11 グループを解散したいと思うこともある | 28 実はリーダーを決めていない |
| 12 今の活動を続けるだけで精一杯だ | 29 リーダーの交代なんてできないだろう |
| 13 いつ自然消滅してもおかしくない状態だ | 30 その他・・・ |
| 14 活動の資金に困っている | 気になる症状がありましたらご記入下さい |
| 15 活動の場所に困っている | |
| 16 事故がおこりそうで不安な時がある | |
| 17 グループ内で連絡がうまくいかない時がある | |

氏 名 _____

グループ名 _____

② 診断チェックシート

氏名 _____ グループ名 _____

第1～6類に記入されている番号に、問診票に○をした項目から転記してください。

第1類 [_____] 5、6、8、10、18 (_____) コ

第2類 [_____] 1、2、3、4、26 (_____) コ

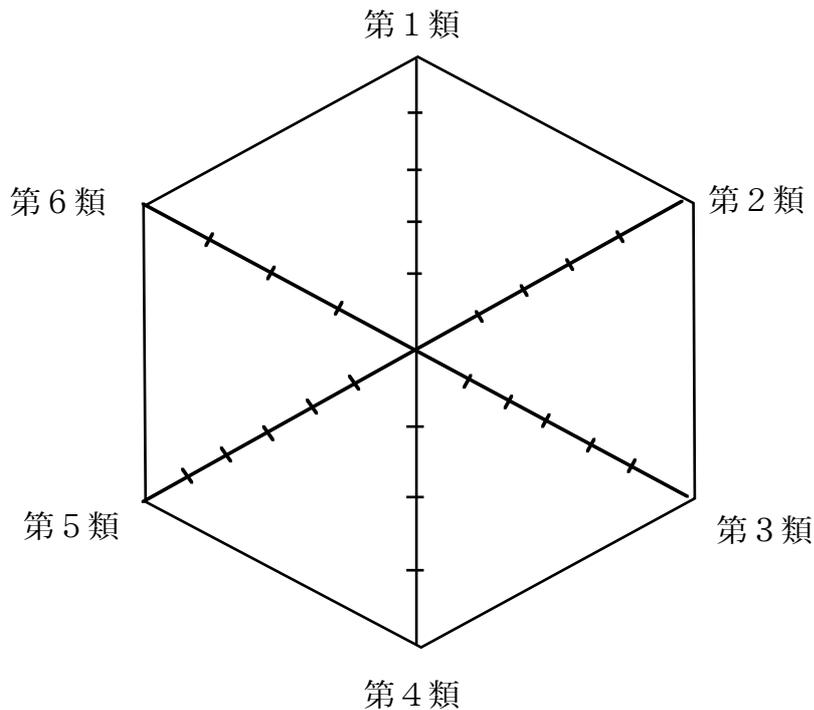
第3類 [_____] 17、19、20、21、22、25 (_____) コ

第4類 [_____] 26、27、28、29 (_____) コ

第5類 [_____] 1、7、9、14、15、24 (_____) コ

第6類 [_____] 14、15、16、23 (_____) コ

別 類 [_____] 11、12、13 (_____) コ



③ 「20項目の運営習慣チェック」

- ①グループの年齢は（ ）才
- ②グループの人数は 名簿上は（ ）人 実際に活動に来るのは（ ）人程度
- ③グループの人数は 増加傾向だ あまり変化なし 減少傾向だ わからない
- ④メンバーの募集は 積極的にしている 特にしていない 来れば拒まない わからない
- ⑤グループの活動内容は（ ）
- ⑥グループの活動内容は以前と変化を していない している わからない
- ⑦グループの活動頻度は 週・月・年（ ）回程度
- ⑧グループの活動頻度は 増加傾向だ あまり変化なし 減少傾向だ
- ⑨グループには「会則」や「規約」が 有る 無い わからない
- ⑩グループの「ちらし」や活動を紹介する「広報誌」が 有る 無い わからない
- ⑪グループの年間活動や役員などをきめる年次総会は
必ず開催している 開催することもある 開催してない
- ⑫活動日とは別に、日常のグループの活動方針や問題を話しあうミーティングを
定期的に行っている することもある してない 活動日にしてる
- ⑬活動方針や予定などの決定事項を記録していますか
している することもある してない わからない
- ⑭会計報告は してる して無い 前はしてた 特にしてない わからない
- ⑮グループで決めたことをどうやって会合に欠席したメンバー等に伝えてありますか
プリントして配付 電話で連絡 特にしてない わからない その他
- ⑯グループの代表・役員の選出方法は
話し合いで 年齢順で 順番で 選挙で わからない その他
- ⑰いままで代表の交代は
したことない 定期的にする 何回かした できない わからない
- ⑱大事なことを決める時は
代表がきめる 役員できめる みんなで わからない その他
- ⑲意見が分かれた時はどうしますか
多数決 まとまるまで話す きめない 代表・役員がきめる その他
- ⑳活動日以外に親睦を深める行事などを
してる（内容 ） して無い 前はしてた わからない

氏 名 _____

グループ名 _____（私はグループの 代表 メンバー だ）